
屋上同盟！

ナオ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

屋上同盟！

【コード】

N3956I

【作者名】

ナオ

【あらすじ】

俺と姫宮の屋上ほのぼのショートストーリー。

(前書き)

短編です。

一応、高2設定です。

現在、四時間目途中。

授業中の教室を通りすぎ、長い廊下を走る。足音を殺して階段を何段も駆け上がつて、ようやく‘侵入禁止’の張り紙があるドアまでたどり着いた。

俺は息を整えるためその場にしゃがみこみ、一息ついてから誰も居ないことを確認し、首から下げていた‘あるもの’を取り出した。それを使い鍵を開けると目の前に広がる青い空と開放感。そして、薄いタオルケットにくるまって気持ち良さそうにまどろむアイツがいた。

「起きろ」

そう言って軽く揺るとヤツは目を覚ました。

「遅いわ。」

偉そうにヤツ…姫宮 薫は
俺を睨む。

「買ってきてくれた？」

「もちろん。」

ムックリと起き上がり、俺が差し出すコンビニ袋を奪い中を確認する。

「……イチゴヨーグルトがないじゃない」

「しょうがないだろ。売ってなかったんだよ。」

そう答えると、姫宮は不機嫌そうに眉をしかめる。

「あなたと私が出会って、そろそろ五年。その中で学んだ一番大切な事は？」

「…姫宮には逆らってはいけない。」

「はい。良くできました。」

ムカつく笑みを浮かべ姫宮
はコンビ二袋の中にあつた、サンドイッチを頬張つた。

「まあ、いいわ。あなたも座れば？」

「……………」

俺は無言で隣に座る。

姫宮は何かを言おうとしたが、すぐに口を閉じ変わりに空を見上げる。

俺もつられて上を見ると、気が抜けるほどキレイに晴れた空があつた。

「いい天気だな。」

「そうね。」

少しだけ会話をし、また空を見上げる。

「今日また、あなたと付き合ってるのか？って聞かれたわ。」

しばらく無言で空を見ていたが、

姫宮が急に話し出した。

「で、なんて答えたんだ？」

「さあね。」

「違っつて言えばよかったのに……。『お友達です』とか」

「明らかに、『友達』レベルじゃないでしょ。」

確かに、俺たちは仲がよい。こんな感じで恋人同士に間違えられることだって、日常茶飯事だ。

「俺たちってどんな関係なんだろう？」

「簡単よ。侵入禁止の屋上に忍び込むっていう秘密を共有する仲。」

姫宮は手を伸ばし俺の首から下げ

である、'屋上のカギ'を弄りながら、澄ました顔で答えた。

「はぁ？」

この時、俺は相当マヌケな顔をしていたと思う。目があった瞬間、姫宮は笑いだした。

「プツ。アハハハハ！」

ツボに入ったんだろう。うっすらと涙をためて、床をバンバン叩きながら爆笑している姫宮に文句を言おうとした時、俺の頭にある事が浮かんだ。

「ねえ、姫宮…」

屋上からはじまって、'友情'よりも甘酸っぱくて、'愛情'なんかよりずっと頑丈で、大切に、かけがえのないこの関係。名前をつけるとしたら…

「'屋上同盟'なんてどう？」

「賛成！」

麗らかなある日の午後。ふ
たりを包むように優しい風
が屋上を吹き抜けた。

(後書き)

読んで下さってありがとうございます。

感想・ご指摘などありましたら、よろしく願います。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3956i/>

屋上同盟！

2011年1月19日06時37分発行